

Ⅲ 遺跡の概要

1. 給部の遺跡

給部は芳賀町域の北東端にあたり、小貝川の支流大川左岸の喜連川丘陵に位置する。地名は丘陵の急傾斜地、あるいは狹隘の地に由来するといわれている（埴 1989）。本地域は南那須町に接し、西側は芳賀牧場、東側はゴルフ場になっている。

本地域には、円筒埴輪棺を出土した千が窪古墳をはじめ銭蒔塚古墳群・東中丸遺跡・西の入古墳群が周知の遺跡として所在している。今回の調査で新たに、給部後久保遺跡・給部後久保東遺跡・屋敷添遺跡・梨ノ木遺跡・堂ノ前遺跡・百目鬼遺跡・給部薬師前遺跡・ヌメクウチ遺跡の8遺跡を確認することができた。

銭蒔塚古墳群は喜連川丘陵上にあり、立街道沿いの山林中に築造されている。円墳6基からなり、銭蒔塚古墳はその主墳にあたる。直径約60m、高さ9mを呈する大型円墳である。本古墳の南方に5基の円墳が並列している。構築された時期は不明であるが、本古墳の南方約1.3kmの所にある大塚台古墳（県指定史跡）との関係から、中期古墳に推定される（埴 1983）。

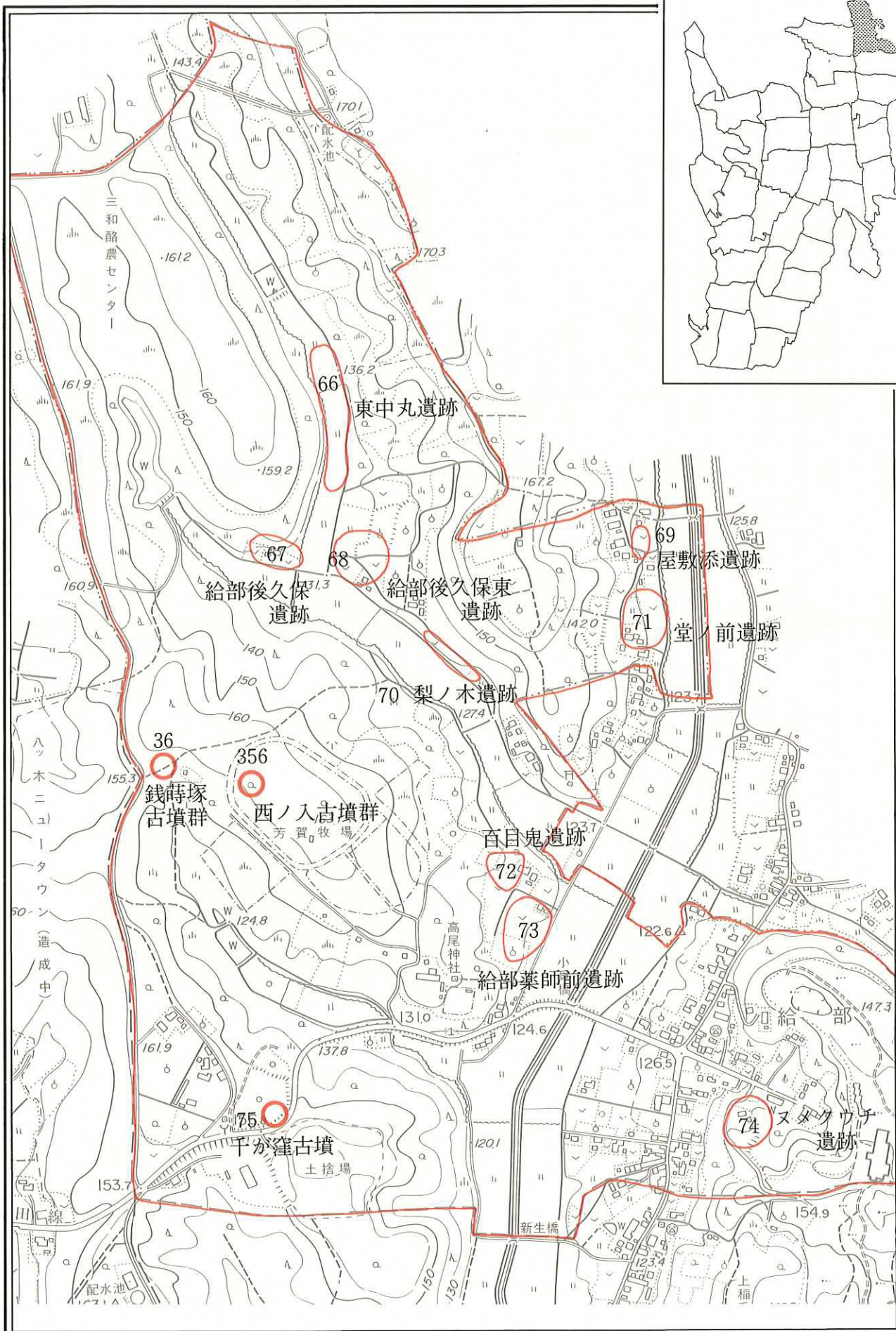
千が窪古墳は喜連川丘陵に位置する円墳である。古墳の東方約0.5kmの所には大川が南流している。昭和42年の開田工事により消滅してしまったが、埴輪類が多数発見され、希少価値のある円筒埴輪棺を埋葬施設にもつ古墳として名高い。調査の結果、周溝内側の直径は16.5m、周溝を含めた直径は22.5m、6世紀前半の古墳と判明した（埴 1967）。

西の入古墳群は芳賀牧場内に存在し、円墳2基より構成される。本古墳は舌状にのびる喜連川丘陵の頂部付近に築造されている。東側には大川が南流している。直径16m、高さ1.5～2.9mである。構築時期については、埋葬施設が未調査であることなどから詳細をなし得なかった（中村 1997）。

今回新しく確認された8遺跡のほとんどが古墳時代に属し、遺物の散布は少ないながら土師器片が確認された。大川右岸の台地状に遺跡が存在する。

（大島美智子）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
36	銭蒔塚古墳群	給部字銭蒔				○				古墳群	山頂	山林
66	東中丸遺跡	給部字東中丸145-2・3他				○				散布地	低（湿）地	田
67	給部後久保遺跡	給部字後久保134-3、165-1				○				散布地	台地	畑
68	給部後久保東遺跡	給部字後久保153-1・3、288-2			○	○				散布地	台地	田
69	屋敷添遺跡	給部字屋敷添190、191他				○				散布地	微高地	畑
70	梨ノ木遺跡	給部字梨ノ木149-1他				○				散布地	微高地	畑
71	堂ノ前遺跡	給部字堂ノ前196-2				○			○	散布地	低（湿）地	畑
72	百目鬼遺跡	給部字百目鬼309-1他				○				散布地	微高地	畑
73	給部薬師前遺跡	給部字薬師前107-2～4他				○	○			散布地	微高地	畑
74	ヌメクウチ遺跡	給部字ヌメクウチ14-14・15他				○				散布地	台地	畑
75	千が窪古墳	給部字千が窪				○				古墳	丘陵	田
356	西ノ入古墳群	給部字西ノ入				○				古墳群	丘陵	



給部の遺跡分布図

2. 上稲毛田2-2の遺跡

上稲毛田2-2は芳賀町域の北東部にあたる。喜連川丘陵と稲毛田台地に位置するが、中央よりやや西は南流する大川によって開析される。本地域の東側は市貝町に接する。大川流域は水田として利用される地域が広がるが、それ以外では、ほぼ台地のため、畑作が多い。北東部はゴルフ場となっている。

本地区には、川向遺跡・百駄窪古墳・七ツ塚古墳群・富士山古墳群・火振塚古墳・高山塚古墳・琴平山古墳・琴平山墨跡が周知の遺跡であり、今回新たに、加々地北Ⅰ遺跡・加々地北Ⅱ遺跡・上條遺跡・前畑遺跡・稲荷沢遺跡の5遺跡を確認することができた。

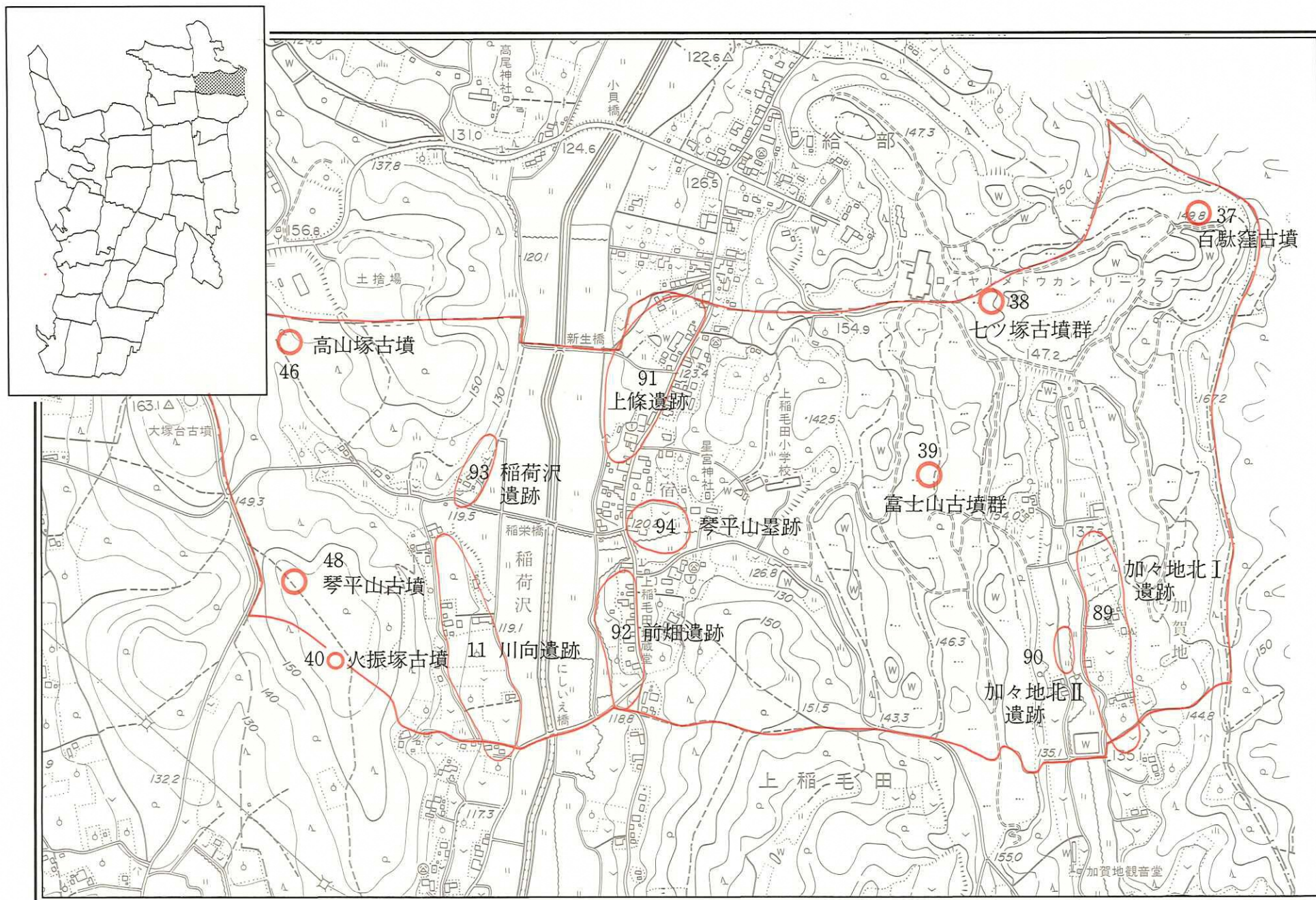
百駄窪古墳は直径30m、高さ3mの円墳で、この地方の古墳としては中規模なものである。付近に小円墳2基があり、古墳群を形成するものと思われる(埴1983)。

七ツ塚古墳群は、湧水点付近に立地し、前方後円墳である全長約35mの長塚古墳と全長約25mの瓢箪塚古墳及び5基の円墳からなる。刀剣が出土したというのが詳細は不明である。本古墳群の南方には富士山古墳群が隣接する。本古墳群は、7基の円墳から構成されるが、七ツ塚古墳群と一連の古墳群を形成する可能性がある(埴1983)。二つの古墳群とも古墳時代後期と考えられる。

琴平山古墳は、芳志戸3-1にある大塚台古墳の南、約400mの同台地上に位置する円墳で、直径52m、高さ5mの規模である。本古墳は大塚台古墳と同規模であり、連続する首長墓と考えられ、5世紀代におさまるものと考えられる。付近に円墳が4基存在している(埴1983)。

今回の調査で新たに確認された5遺跡は、ほとんどが古墳時代から奈良・平安時代に属し、遺物の散布が少量みられるのみであるが、大川左岸の低台地上に立地する上條遺跡は、広範囲に土師器の散布が認められ、古墳時代の大規模な集落になる可能性がある。(平久保直希)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
11	川向遺跡	上稲毛田字稲荷沢				○	○		○	散布地	台地	畑
37	百駄窪古墳	上稲毛田字百駄窪				○				古墳	山頂	山林
38	七ツ塚古墳群	上稲毛田字篠の入				○				古墳群	台地	山林
39	富士山古墳群	上稲毛田字富士山				○				古墳群	台地	山林
40	火振塚古墳	上稲毛田字夕日向				○				古墳	台地	山林
46	高山塚古墳	上稲毛田字稲荷沢				○				古墳	台地	山林
48	琴平山古墳	芳志戸字上岡台				○				古墳	山頂	山林
89	加々地北Ⅰ遺跡	上稲毛田字加々地1206他				○	○			散布地	微高地	畑
90	加々地北Ⅱ遺跡	上稲毛田字加々地1197他					○			散布地	台地	畑
91	上條遺跡	上稲毛田字686～688-2他				○				散布地	台地	畑
92	前畑遺跡	上稲毛田字前畑377他381-12他				○			○	散布地	台地	畑
93	稲荷沢遺跡	上稲毛田字稲荷沢673他				○			○	散布地	台地	畑
94	琴平山墨跡	上稲毛田字								城館跡		



上稲毛田2-2の遺跡分布図

3. 上稲毛田 2-1 の遺跡

上稲毛田 2-1 は芳賀町域の北東部、小貝川支流の大川が南流する稲毛田台地および喜連川丘陵上に位置する。丘陵は南北に小河川で開析されている。東側は高根沢町に接しており、畑地・果樹園が開けている。

本地域には、金山遺跡・金山古墳群・首無し地蔵塚古墳が周知の遺跡として存在している。今回新たに加々地東遺跡・加賀地観音堂北遺跡・加々地遺跡・加々地南Ⅱ遺跡・加々地南Ⅰ遺跡・前山久保遺跡・下山台遺跡・下山遺跡・迎ノ内遺跡・原遺跡の 10 遺跡を確認することができた。次に主要な遺跡の紹介をする。

金山遺跡は、大川右岸の稲毛田台地上に位置する。南端に金山古墳群があり、3 基の円墳で構成されている。墳丘は削土され、現状は畑地になっている。

首無し地蔵塚古墳は直径 25m、高さ約 2 m の円墳である（埴 1983）。

今回確認された加々地東遺跡・加賀地観音堂北遺跡・加々地遺跡・加々地南Ⅱ遺跡・加々地南Ⅰ遺跡・前山久保遺跡・下山台遺跡は、いずれも谷を臨む台地東西斜面上に立地する。加々地南Ⅰ遺跡は小貝川支流の小さな谷を臨む低台地上に南北に長く形成された縄文時代中期の遺跡である。

原遺跡は大川右岸の段丘上に広範囲に立地する遺跡である。遺物は土師器片・須恵器片が比較的多量に採集できた。古墳があったということであるが、削平されて現在は梨畑になっている。金山遺跡、一段上位に立地する迎ノ内遺跡と同一の遺跡である可能性が高い。前述の首無し地蔵塚古墳は、原遺跡の南東端に位置する。

（大沼正代）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
12	金山遺跡	上稲毛田字金山		○		○	○			集落跡	台地	畑
41	金山古墳群	上稲毛田字金山				○				古墳群	丘陵	畑
42	首無し地蔵塚古墳	上稲毛田字日供内				○				古墳	平地	畑
110	加々地東遺跡	上稲毛田字加々地1172他		○						散布地	低（湿）地	畑
111	加賀地観音堂北遺跡	上稲毛田字加々地1502-9他				○				散布地	台地	畑
112	加々地遺跡	上稲毛田字加々地1130、1131他				○			○	散布地	台地	畑
113	加々地南Ⅱ遺跡	上稲毛田字加々地1083、1084他		○		○				散布地	低（湿）地	畑
114	加々地南Ⅰ遺跡	上稲毛田字加々地1093他		○		○			○	散布地	低（湿）地	畑
115	前山久保遺跡	上稲毛田字前山久保939、940他		○						散布地	台地	畑
116	下山台遺跡	上稲毛田字下山台967、1002				○				散布地	低（湿）地	畑
117	下山遺跡	上稲毛田字下山307-1、344				○				集落跡	微高地	畑・宅地
118	迎ノ内遺跡	上稲毛田字迎之内200-1他					○			集落跡	台地	畑
119	原遺跡	上稲毛田字原73他					○			集落跡	台地	畑

7. ハツ木の遺跡

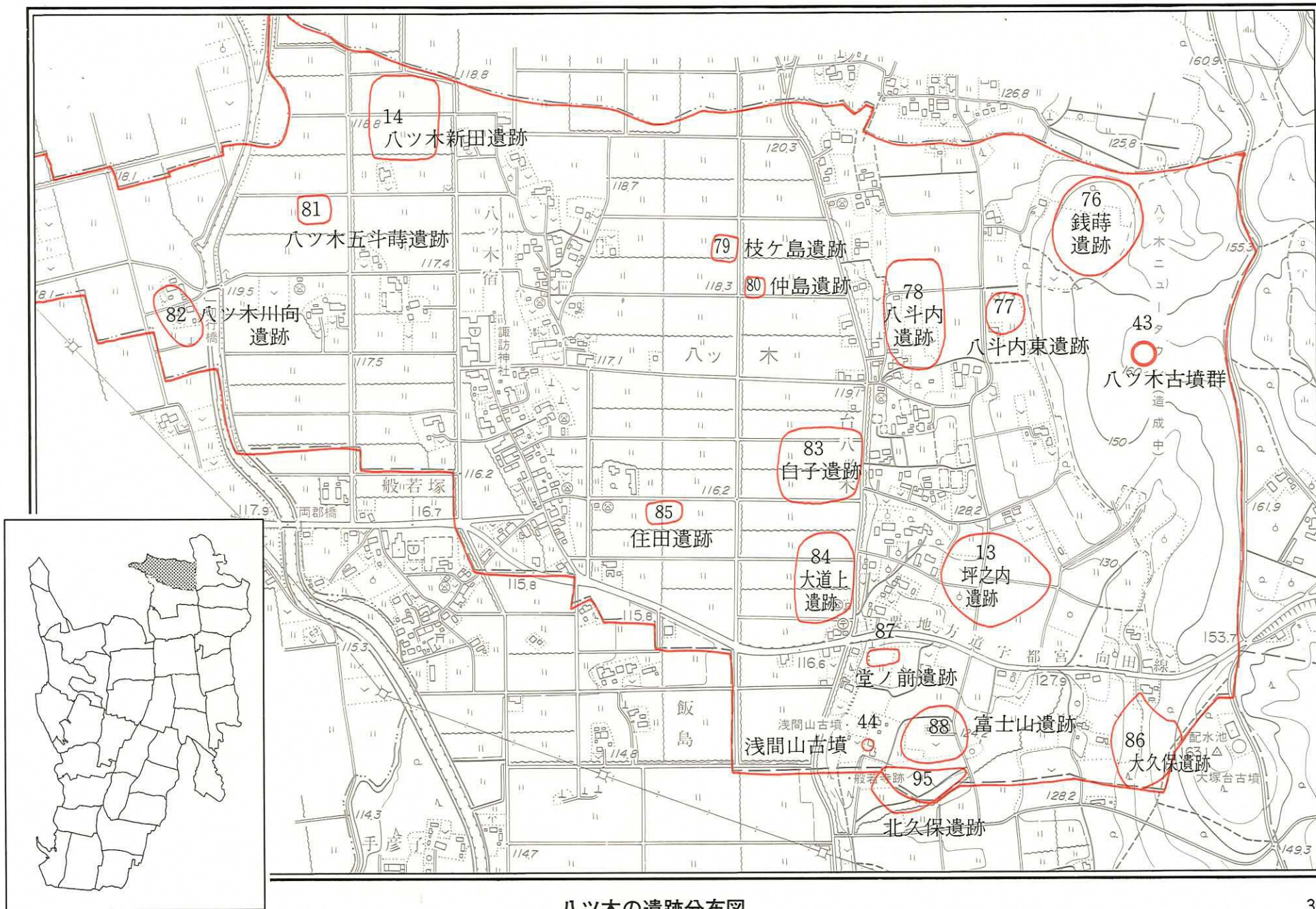
ハツ木は芳賀町域の北部、五行川左岸に位置し、低地の宿ハツ木、稲毛田台地および喜連川丘陵上の台ハツ木から成っている。「ハツ木」の地名は五行川沿岸の低湿地に由来すると言われている（埴 1989）。本地域は高根沢町に接し、低地部には水田地帯が開け、東部台地には果樹園が多く営まれている。

本地域には、坪之内遺跡・ハツ木新田遺跡・ハツ木古墳群・浅間山古墳が周知の遺跡として存在している。今回新たに銭蒔遺跡・八斗内東遺跡・八斗内遺跡・枝ヶ島遺跡・仲島遺跡・ハツ木五斗蒔遺跡・ハツ木川向遺跡・白子遺跡・大道上遺跡・住田遺跡・大久保遺跡・堂ノ前遺跡・富士山遺跡の 13 遺跡を確認することができた。

坪之内遺跡は喜連川丘陵の南端部に位置する縄文時代中期から晩期にかけての集落跡である。本遺跡は昭和 29 年秋、宇都宮大学によって発掘調査が行われた。調査の結果、縄文時代の遺構は発見されなかったが、中期から晩期にわたる土器・石器が出土した。晩期では大洞式系統の土器が主体を占め、精製土器には多量の粗製土器が伴出する。この遺跡は本町内に分布する遺跡としては屈指のものであったが、開田工事が盛んであった頃整地され、ほとんど壊滅してしまった（埴 1955）。給部から続く喜連川丘陵は、銭蒔塚古墳をはじめとする古墳の密集地帯であり、今回の調査で新たに確認された同時代の集落跡との関連が考えられる。

（大沼正代）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
13	坪之内遺跡	ハツ木字坪之内		○		○	○			集落跡	台地	田・畑
14	ハツ木新田遺跡	ハツ木字新田・北の沢968他				○	○			集落跡	丘陵	田
43	ハツ木古墳群	ハツ木字				○				古墳群	台地	山林
44	浅間山古墳	ハツ木字南窪富士山				○				古墳	山頂	山林
76	銭蒔遺跡	ハツ木字銭蒔171他		○	○	○	○			集落跡	台地	畑
77	八斗内東遺跡	ハツ木字										
78	八斗内遺跡	ハツ木字		○		○	○			集落跡	台地	田・畑
79	枝ヶ島遺跡	ハツ木字枝ヶ島618-2		○			○			散布地	台地	田
80	仲島遺跡	ハツ木字仲島584		○						散布地	台地	田
81	ハツ木五斗蒔遺跡	ハツ木字五斗蒔1000		○			○			散布地	微高地	田
82	ハツ木川向遺跡	ハツ木字川向1094-1他					○			散布地	低（湿）地	田
83	白子遺跡	ハツ木字白子544-2		○			○	○		集落跡	微高地	田
84	大道上遺跡	ハツ木字大道上522-1		○		○	○			集落跡	微高地	田
85	住田遺跡	ハツ木字住田656他		○						散布地	低（湿）地	田
86	大久保遺跡	ハツ木字大久保1-2～8				○	○			集落跡	台地	田
87	堂ノ前遺跡	ハツ木字堂ノ前 458-1		○		○				集落跡	台地	畑
88	富士山遺跡	ハツ木字富士山478-1				○			○	集落跡	台地	畑



ハツ木の遺跡分布図

8. 芳志戸 3-1 の遺跡

芳志戸 3-1 は芳賀町の北東側で、中央部東寄りには江戸時代に掘削された市ノ堀用水が南流し、これを境にして西側が五行川低地、東側が稲毛田台地に位置している。本地区の西側で高根沢町と接している。地名は弘法大師が開創したといわれる般若寺跡があり、大師縁の地というところから「法師土」という説や台地の端部に由来するという説がある。

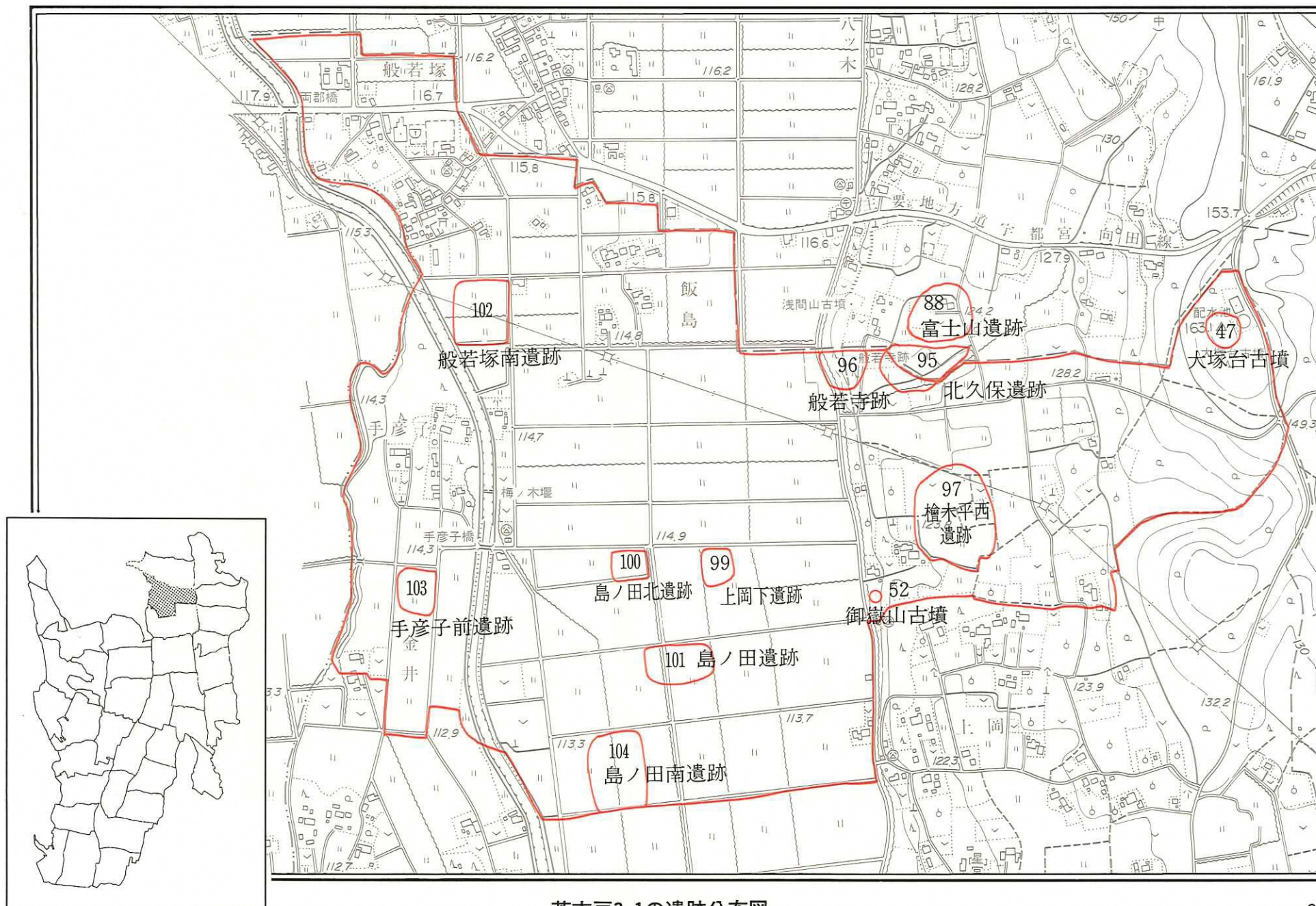
本地区には周知の遺跡として、大塚台古墳・般若寺跡があり、今回新たに御嶽山古墳北久保遺跡・桧木平西遺跡・上岡後 1 号墳・上岡下遺跡・島ノ田北遺跡・島ノ田遺跡・般若塚南遺跡・手彦子前遺跡・島ノ田南遺跡の 9 遺跡を確認した。次に主要な遺跡を紹介したい。

大塚台古墳は五行川と小貝川の支流である大川とに挟まれた台地中央に位置し、立街道沿いにある。墳丘は東西にやや長い楕円形状を呈し、長軸 48.5m、短軸 44m、高さ約 5m である。栃木県内の円墳の中では大形の部類に属することから中期型の大形円墳と想定でき、5 世紀代の築造と考えられる。付近に小型の円墳 3 基が認められる（栃木県史編さん委員会 1976・埴 1983）。

般若寺跡は前述したように弘法大師が開創したといわれる寺院跡であり、江戸時代には七堂伽藍が備わる仁王門があった。明治維新までは荘厳な寺院であったが、明治 35 年の火災ですっかり無くなってしまった。この寺跡には徳川 10 代将軍家治公の供養塔、田安宗武侯の供養その外に 4 基の供養塔があり、前記の 2 基は家治の養女種姫（宗武の娘）が建立したものである。墓誌銘板（天明 8 年銘）には種姫が家治の遺命を受けてこれらの供養塔が建立される模様が書かれている。なお、寺跡東方 120m の塚上には、般若寺歴代の住職の墓碑が現存している（徳田 1978）。

今回新たに発見された遺跡のほとんどが古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺跡である。他に、北久保遺跡、桧木平西遺跡が縄文時代の遺跡、島ノ田南遺跡が中世の遺跡である。上岡後 1 号墳は直径約 25m、高さ約 2.5m の円墳で、五行川左岸の南北にのびる台地西縁部に立地している。（塩谷慎介）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
47	大塚台古墳	芳志戸字大塚台				○				古墳群	山頂	山林
52	御嶽山古墳	芳志戸字上岡				○				古墳	台地	山林
95	北久保遺跡	芳志戸字北久保2426他		○						集落跡	台地	田
96	般若寺跡									寺院跡		
97	桧木平西遺跡	芳志戸字桧木平2322～2324、2346他		○						集落跡	台地	畑
99	上岡下遺跡	芳志戸字上岡下1790他				○				散布地	微高地	田
100	島ノ田北遺跡	芳志戸字島ノ田1718-1他				○	○			散布地	微高地	田
101	島ノ田遺跡	芳志戸字島ノ田1725他					○			散布地	微高地	田
102	般若塚南遺跡	芳志戸字般若塚2614-1					○	○		集落跡	自然提防	田
103	手彦子前遺跡	芳志戸字手彦子前1645-1他					○			散布地	自然提防	田
104	島ノ田南遺跡	芳志戸字島ノ田1698-2他						○		集落跡	微高地	田



芳志戸3-1の遺跡分布図

9. 芳志戸 3-2 の遺跡

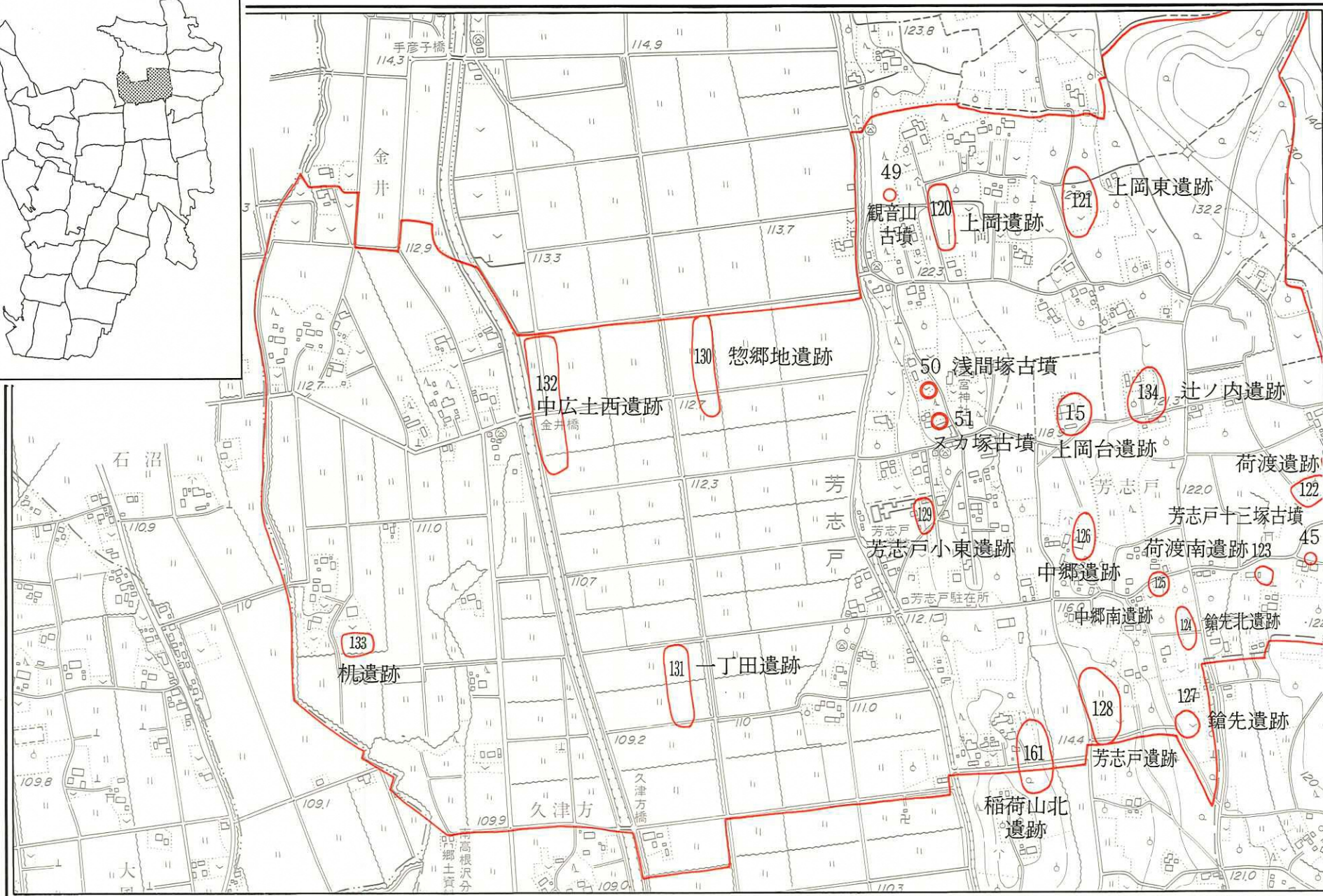
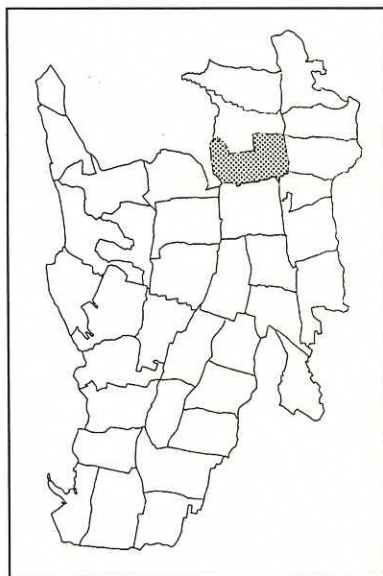
芳志戸 3-2 は、五行川左岸に位置し、西側は高根沢町と接している。五行川沿いは水田として利用され、台地上は果樹を中心とした畑地が多い。

本地域には縄文時代の集落跡である上岡台遺跡や芳志戸十三塚古墳・観音山古墳・浅間塚古墳・ヌカ塚古墳・御嶽稲荷塚古墳が周知の遺跡として知られ、今回の調査で新たに上岡東遺跡など 15 遺跡が確認された。

本地域では芳志戸十三塚古墳・観音山古墳・浅間塚古墳・ヌカ塚古墳・御嶽稲荷塚古墳など特徴ある古墳群がある。

今回確認された 15 遺跡のほとんどが古墳から奈良・平安時代に属し、遺物の散布は少ない。また、上岡遺跡は観音山古墳の西約 180m の所にあり、若干の土師器片が採集された。なお、上岡東遺跡・荷渡遺跡・荷渡南遺跡・辻ノ内遺跡では、縄文時代の中期にあたる土器片や磨石等が確認されている。（大島美智子）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
15	上岡台遺跡	芳志戸字上岡台		○		○	○			集落跡	平地	畑
45	芳志戸十三塚古墳	芳志戸字十三塚				○				古墳	台地	畑
49	観音山古墳	芳志戸字上岡台・上岡1856-1				○				古墳	台地	宅地
50	浅間塚古墳	芳志戸字中郷				○				古墳	台地	山林
51	ヌカ塚古墳	芳志戸字中郷				○				古墳	台地	山林
120	上岡遺跡	芳志戸字上岡1871-3他				○	○			散布地	台地	田・畑
121	上岡東遺跡	芳志戸字上岡2287他		○		○				散布地	微高地	畑
122	荷渡遺跡	芳志戸字荷渡2205-1		○						散布地	台地	畑
123	荷渡南遺跡	芳志戸字荷渡2194-1		○					○	散布地	台地	畑
124	鎗先北遺跡	芳志戸字鎗先2179				○	○			散布地	台地	畑
125	中郷南遺跡	芳志戸字中郷2019				○	○			散布地	台地	畑
126	中郷遺跡	芳志戸字中郷1984-6				○	○		○	集落跡	台地	畑
127	鎗先遺跡	芳志戸字鎗先2164-1他				○				散布地	微高地	畑
128	芳志戸遺跡	芳志戸字芳志戸2142-1他				○	○			集落跡	微高地	畑
129	芳志戸小東遺跡	芳志戸字芳志戸2052-1				○	○			集落跡	台地	畑
130	惣郷地遺跡	芳志戸字惣郷地1404他						○		散布地	自然堤防	田
131	一丁田遺跡	芳志戸字一丁田1169他					○	○		集落跡	自然堤防	田
132	中広土西遺跡	芳志戸字中広土1436他					○			散布地	自然堤防	田
133	机遺跡	芳志戸字机1542					○			散布地	自然堤防	田
134	辻ノ内遺跡	芳志戸字辻ノ内2236-1、2234-1		○						散布地	台地	梨畑



芳志戸 3-2 の遺跡分布図

10. 芳志戸 3-3 の遺跡

芳志戸 3-3 は芳賀町域の北部にあたる。本地域の大部分は五行川低地に位置しており、水田地帯が広がる。東は祖母井台地、稲毛田台地に接する。

本地区には、東秋場遺跡・御嶽稲荷塚古墳が周知の遺跡として知られ、今回新たに、鎗先南遺跡・稲荷山北遺跡・杉ノ本遺跡・西秋場遺跡・下ノ台遺跡の5遺跡を確認することができた。

東秋場遺跡は、五行川左岸の低台地上に立地する。吉ヶ谷式に類似する壺形土器が単独で出土しており、弥生時代後期に位置付けられる（埴 1983）。

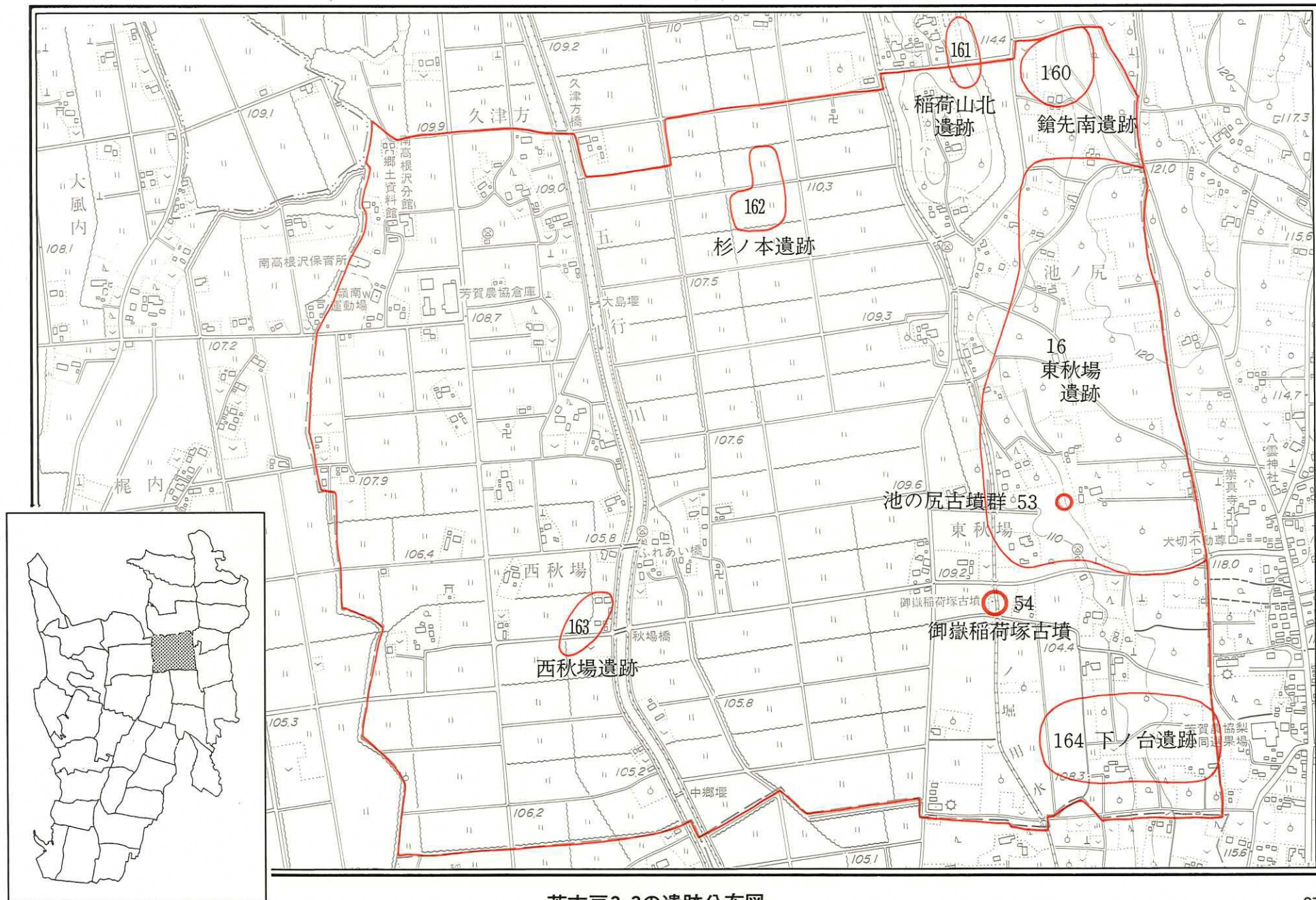
鎗先南遺跡は、五行川左岸台地の西縁に立地する。現状は梨畑となっており、表面採集が困難であった。それでも古墳時代に属するものと考えられる土師器片を採集することができた。また、聞き取り調査によると、本遺跡の範囲内あるいは付近に、塚が3つ存在していたという。古墳であった可能性が考えられるが、明らかに古墳と認められるものを確認することはできなかった。西側は稲荷山北遺跡が隣接し、古墳時代に属するものと考えられる土師器・須恵器片が出土している。

西秋場遺跡は五行川右岸の水田地帯に位置し、縄文土器や弥生土器の散布が認められたが、開田の影響によって遺跡の遺存状態はあまり良好でないものと考えられる。

杉ノ本遺跡は五行川左岸の低位段丘に立地し、古墳時代に属するものと考えられる土師器片がやや多く認められた。また陶器片が多く認められ、近世の宅地跡の可能性もある。下ノ台遺跡は、土器細片が少量認められたのみであるが、大部分が梨畑となっており、遺物の表面採集から遺跡の範囲を確定することが困難な状況であった。

（平久保直希）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
16	東秋場遺跡	芳志戸字東秋場・東台66、112、500-1、503-1他		○	○	○	○			集落跡	台地	畑・宅地
53	池の尻古墳群	芳志戸字池の尻				○				古墳群	台地	山林
54	御嶽稲荷塚古墳	芳志戸字東秋場				○				古墳	平地	原野
160	鎗先南遺跡	芳志戸字鎗先511-1他				○	○			集落跡	台地	畑
161	稲荷山北遺跡	芳志戸字稲荷山517、中山2215-1				○				集落跡	台地	畑・宅地・山林
162	杉ノ本遺跡	芳志戸字杉ノ本765-2				○			○	集落跡	微高地	田・宅地
163	西秋場遺跡	芳志戸字西秋場402-1他		○	○					散布地	低（湿）地	田
164	下ノ台遺跡	芳志戸字下ノ台13-1他				○			○	集落跡	台地	田・畑



芳志戸3-3の遺跡分布図